

亦古張帛爲撤之遺事也、高齊始爲之等差云、今天子用紅黃二等、而庶僚通用青、其天子之以黃、蓋自秦漢黃屋左纛之制也、

雨傘

六韜曰、天雨不張蓋幔、周初事也、通俗文曰、張帛避雨謂之繖、蓋卽雨傘之用、三代已有也、繖傘字通、

〔運步色葉集〕賀唐傘

〔易林本節用集〕器加財唐笠傘

〔和漢三才圖會〕二十六散音傘

〔名物六帖〕器財五履傘正字通傘蘇爾切、禦雨蔽日、可以卷舒者、傘用中、油傘傘裙、傘上共見、笠

傘南史王籍傳、雨傘雨字、傘音散、傘柄上木管子傘柄上木管子、衆骨所會者、浮圖正字通、金志

品青浮圖註浮圖徽項也○中略、笠檣、龜蒙詩笠檣、傘記號、龍圖公案、爾兩人傘有記號、椽南

音老篇海、車蓋弓言、車前蓋如弓形者、六書故、蓋弓謂之椽、與輓通、椽

〔貞丈雜記〕調度一柄笠と舊記にあるは、からかさとよむべし、柄の字をからとよむ也、

〔中右記〕元永二年四月廿二日丁酉、從朝天陰、小雨間下、賀茂祭也、○中略、過御棧敷間、或乞指笠於下人、

〔三中口傳一〕甲、褰御簾樣

御簾ヲ持上ル時、下簾ヲ左右共一方へ引出テ具簾而持上之、○中略、又自上兩樣隨役人有差、笠ヲ攤

スル役人、下薦歟、但可隨事也、

〔古今要覽稿〕器財からかさ傘

からかさはいつの頃より始りしといふ事、いまだ詳ならず、おもふにもと皇國に始まりし物に、あらずして、外國より渡り來りしものと思はる、其故は欽明天皇十三年冬十月、百濟聖明王云々、獻釋迦佛金銅像一軀、幡蓋若干、日本とみえたる、これより古く蓋の類の名の出たる事なければ、

傘沿革